

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 小玉 聡

本研究は、経頭蓋磁気刺激法（TMS、transcranial magnetic stimulation）を用いて、てんかん患者における臨床評価の指標について、探索的な検討を行ったものであり、以下の結果を得ている。

1. てんかん患者に対して単発刺激・二発刺激を用い、運動閾値、CSP、SICI、ICF、LICI といった指標について検討した。その結果、てんかんの発作コントロールが不良である群はコントロールが良好である群および健常者群と比較して、SICI の作用が有意に減弱しており、同パラメータが発作コントロールを反映した指標である可能性が示唆された
2. TMS-EEG を全般性てんかんの患者に行なった場合、TMS によって誘発される TEP の N45、P60、N100 の振幅が増大する傾向が見られ、TEP の各成分が同疾患で見られる大脳神経細胞の興奮性増大の指標となる可能性が示唆された。

以上、本論文は TMS の各種指標を用いることにより、てんかんにおける臨床像や病態を反映させることができる可能性を示し、臨床てんかん学において重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。